

送配電等業務指針第33条第1項第2号アからエまでの要件適否の状況に係る詳細について(9月末現在)

ア. 地域間連系線の利用実績
空容量/運用容量が5%以下の時間数比率

連系線	2015/10~2016/9		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	1%	62%	○
東北東京間連系線	1%	0%	
東京中部間連系設備	1%	59%	○
中部関西間連系線	0%	1%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	1%	
中国九州間連系線	0%	7%	
中部北陸間連系設備	5%	5%	※
関西四国間連系設備	0%	1%	※
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	1%	

イ. 地域間連系線の年間計画
空容量/運用容量が5%以下の時間数比率(システム段階的運開により第10回数値を再掲)

連系線	2016/3~2017/3		判定
	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	1%	80%	○
東北東京間連系線	34%	0%	○
東京中部間連系設備	0%	79%	○
中部関西間連系線	2%	3%	
北陸関西間連系線	0%	0%	
関西中国間連系線	0%	0%	
中国四国間連系線	0%	0%	
中国九州間連系線	0%	34%	○
中部北陸間連系設備	8%	8%	
関西四国間連系設備	0%	0%	
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	0%	0%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	0%	0%	

判定 ○ :運用容量に対する空容量が5%以下の時間数比率が、過去1年間で20%以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したのとして取り扱い総合的に判断する

ウ. 地域間連系線の長期計画
空容量/運用容量(システム段階的運開により第10回数値を再掲)

連系線	時間帯	方向	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	判定
北海道本州間連系設備	ピーク	順方向	12%	16%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
		逆方向	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
東北東京間連系線	ピーク	順方向	9%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
		逆方向	596%	610%	669%	669%	777%	769%	769%	769%	
東京中部間連系設備	ピーク	順方向	63%	63%	63%	63%	36%	33%	33%	33%	
		逆方向	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
中部関西間連系線	ピーク	順方向	61%	119%	119%	131%	131%	126%	126%	126%	
		逆方向	87%	59%	59%	53%	53%	56%	56%	56%	
北陸関西間連系線	ピーク	順方向	62%	97%	97%	97%	97%	97%	97%	97%	
		逆方向	140%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	96%	
関西中国間連系線	ピーク	順方向	146%	150%	146%	146%	146%	146%	146%	146%	
		逆方向	25%	20%	23%	23%	23%	23%	23%	20%	
中国四国間連系線	ピーク	順方向	32%	29%	29%	29%	28%	28%	28%	28%	
		逆方向	91%	93%	93%	93%	95%	95%	95%	95%	
中国九州間連系線	ピーク	順方向	995%	1026%	1026%	1027%	1027%	1027%	1027%	1027%	
		逆方向	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	○
中部北陸間連系設備	ピーク	順方向	100%	192%	192%	192%	192%	192%	192%	192%	
		逆方向	100%	8%	8%	8%	8%	8%	8%	8%	※
関西四国間連系設備	ピーク	順方向	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	14%	
		逆方向	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	※
中部北陸間連系設備 北陸関西間連系線迂回	ピーク	順方向	86%	63%	63%	63%	63%	63%	63%	63%	
		逆方向	62%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	
関西四国間連系設備 中国四国間連系線迂回	ピーク	順方向	22%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	21%	
		逆方向	45%	46%	46%	46%	46%	46%	46%	46%	

■ :運用容量に対する空容量が10%以下の年

判定 ○ :運用容量に対する空容量が10%以下の年が3年以上となった場合
※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したのとして取り扱い総合的に判断する

エ. 市場取引状況
市場分断処理の時間数比率(2015/10~2016/9)

連系線	北海道本州		東北東京		東京中部		中部北陸		中部関西		北陸関西	
	順	逆	順	逆	順	逆	順	逆	順	逆	順	逆
分断比率	0.3%	49.8%	1.0%	0.0%	0.3%	75.4%	0.1%	0.5%	0.1%	0.1%	0.4%	0.0%
判定		○				○						

連系線	関西中国		関西四国		中国四国		中国九州	
	順	逆	順	逆	順	逆	順	逆
分断比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%
判定								

判定 ○ :過去1年間に市場分断処理を行った商品の数が、過去1年間の総商品数の20%以上